

正和会視察報告

報告者 佐藤弘治

【日時】 令和 4 年 9 月 26 日(月)10:00~12:00

【場所】 西多摩衛生組合環境センター

【参加者】 石川義郎、山崎貴裕、小林貢、小澤芳輝、佐藤弘治、清水義朋、幡垣正生、武藤政義、串田金八(議席番号順)

【目的】

西多摩衛生組合環境センターは、青梅市、福生市、羽村市及び瑞線町の住民生活を支える重要な一般廃棄物処理施設(清掃工場)である。平成 24 年に「西多摩衛生組合環境センター長寿命化計画」が策定され、これに係る諸事業が推進される中で、今後の 20 年を見据えた取組みが行われている。今回の視察は、環境政策についての知見を高め、市政の発展に寄与することを目的に行う。



西多摩衛生組合環境センター

【今後の組合運営の方向性に基づく事業計画】

組合では、環境センター「長寿命化計画」を推進するに当たり、今後の 20 年の施設運営を検討する中で、市民に対し、事業内容や清掃工場の新たな社会的役割(防災機能・環境対策の強化等)、構成市町の



4つの活動方針

環境施策を情報発信し、清掃工場の重要性(生活根幹施設・非代替施設・地域基盤設備)と廃棄物行政への理解促進を促し「環境にやさしく安全で地域と協働する清掃工場」として、地域住民等の理解と協力を確保していくといった方向性が打出された。そして「今後の組合運営の方向性」に基づく事業計画が体系化された。

そのなかで、①地域住民等の理解と協力、②環境センターの延命・強靱化対策、③フレッシュ

ランド西多摩の維持・改修対策、④災害対策の強化と新たな価値の創出など 4 つの方向性が示された。

【西多摩衛生組合環境センター環境学習拠点整備(見学者コース更新)事業】

この方向性のうち、①の具体策として「令和 3 年度西多摩衛生組合センター環境学習拠点(見学者コース更新)整備事業」が決定され更新が行われた。今回の視察では職員の説明では、この見学者コースについて丁寧に説明がなされた。

コースの整備については、外部発注するのではなく、組合職員によるワーキンググループがコンセプト、展示ストーリー、ゾーニングを考案し、小学校低学年から高齢者及び障害者等、多様な来館者に対応できるコースの整備を自ら行った。職員の話によると小学校 4 年生の社会科見学では、主に 6・10 月に見学が行われ通常では 1500 名の児童が来所するとのことだった。



見学者コースの説明を受ける様子

【可動式蓄電池を活用したグリーンエネルギーの地域還元事業】

また平成 30 年度から令和元年度に実施された電設備改良工事では、長寿命化計画により施設を延命していく中で、環境センターの強靱化、防災拠点化を推進するもので、災害・停電発生時における環境センター場内の予備電源の確保のほか、工事の計画段階から、「移動式蓄電池」の特性を生かした指定避難所などへの電力提供・電力還元を想定した取組みとして次の①②③が進められた。

① 自家用発電機の出力増強(1,980kW-2,370kW)

無駄なく利用することを目的に、既存の蒸気タービン発電機の発電能力を 1,980kW から 2,370kW に増強した。これにより焼却炉 2 炉稼働時は環境センター場内の電力を全て賄い、余剰電力は送電(売電)することが可能となった。

② 移動式蓄電設備の新設

増強した自家用発電による電力の一部を、蓄電設備に蓄えることにより、非常時(停電時等)の電力源として活用する。具体的には、非常時(停電時)における通信機器類の電源や照明用電源等に蓄電池を利用し、災害発生時の施設の強靱化・防災機能の強化を図る。また、蓄電設備に移動式蓄電池を採用することで、場内での電力使用だけでなく、近隣の指定避難所等への搬送も可能となり、非常時における携帯端末等の充電用電源とし



移動式蓄電池の説明

での活用も見込まれており、現在は構成市町の図書館で充電サービスが提供されている。

③ 太陽光発電設備の新設

非常時(停電時)における環境センターの稼働停止に備え、通信機器や照明器具に最低限必要となる電力を確保するために導入した設備。定常時には、太陽光発電による電力は移動式蓄電池に充電するほか、環境センター場内の電力として使用することができる。

【所感】

廃棄物処理施設は、地域における循環型社会形成の推進やエネルギーセンター、さらには災害対策等の拠点となるインフラとして、新たな社会的役割が期待されており、新たな社会的役割を担える施設への転換が求められている。従来のいわゆる迷惑施設から、市民に求められる、地域に価値を創出する社会インフラとして存在し続けるためには、市民の理解を前提に地域と共にある施設としてハードとソフトの両面での革新をし続けていかなければならない。



研修の様子

今回、研修の中で力点が置かれた「見学者コース更新」及び「移動式蓄電設備の新設」はこれに資する取組みであり、職員自らの創意・工夫と熱意が込められている。新たな環境都市を形成するために必要なのは、持続可能な社会への市民と行政の深い理解と熱意、そして行動であると改めて感じた。今回の視察を糧に、持続可能な地域づくり、まちづくりを強く推しめるための礎の一つにしていきたい。

以上